

## 1998年の年頭にあたって

今年も、年頭に当たって愚にもつかない文章から始まります。

1997年は、いろいろなことのあった年でした。コンピュータ業界としても、CPUとしてはPentium IIが登場し、あの高性能なCPUがビジネス用から一気にコンシューマ用まで発売されています。メモリも、いつのまにかEDOからSDRAMに変わってしまい、HDDは数GB標準、倍速どころではない20倍速のCD-ROMが標準となってしまっています。その中で短くなってきた製品寿命は去年もやっぱり短いままでした。OSについていえば、次期WindowsであるWindows 97が出るという話が伸びに伸びて、今のままでは98年の夏になりそうですが、そうしている間に、サーバ用のネットワークOSがWindows NT、クライアント用がWindows 95となってしまい、ブラウザもInternet Explorerが主流となってしまっているのは反論できない状況です。一年前、97年のキーワードは「インターネット」と「イントラネット」と書きましたが、その状況だけは変わっていないようです。

1998年を考える場合、今年もキーワードは「イントラネット」でしょうか。確かにキーワードであることは間違いないのですが、今年のキーワードはあえて「ネットワークコンピューティング」にしたいと思います。

現在、パソコンの普及は大変なものが有ります。いろいろなところで使われていることも事実です。会社でも、家庭でも（どの程度使われているかは別として）使われていますし、公共の施設へ行っても使われています。また、町おこしのためにネットワークを構築したり、学校を立て替えるのにネットワークを構築したインテリジェントスクールを目玉にすることも有ります。このようにいろいろなところで使われていますが、実際どのぐらい活用されているかとなった場合疑問の有るところです。使える、運用できる人がいなければ構築もされませんが、構築したところで活用されないのも現実です。今のところ大半の人が活用できない状態といっても過言ではないと考えます。活用できるシステムの構築、社会に受け入れられるほど利用し易いシステムがこれからは求められています。何か特別の知識が無ければ使えないものであっては困るのです。キーワードは「ネットワークコンピューティング」ですが、利用する側からすれば、単なる「便利な機械」とするためのネットワークコンピューティングがこれからは重要になってくると考えます。

その為には、管理者が管理し易いシステムが必要になります。単なる「便利な機械」でいいわけですから、システムの拡張、自由度は必要なくなります。電源を入れれば使える、何も知らなくても触っていけば使える、そんなシステムになっていく必要が有るように考えます。そのようになるのはまだまだ先かも知れませんが、今年はその第一歩として、ネットワーク全体を一つのものとして捉える「ネットワークコンピューティング」が普及していけば・・・

# IntelのWired for Management構想について(3)

## ハードウェアトラブルの監視

デスクトップ管理に関するコストの中でその30%以上を占めるのが「PCがダウンしている間の損失」であるという調査結果があります。購入直後の初期不良も有りますが、確かに使っている内に発生する障害によってPCがダウンしてしまうことは大変な問題となってしまいます。これまでのように、PCにトラブルが発生してからメンテナンスをしていたのでは、PCのダウン時間を短くすることはできません。PCのハードウェアトラブルやその兆候を予知することができれば、事前に適切な対策を行うこともできます。WfM 1.1では、ハードウェアの異常を速やかに検出するためのセンサーやECCメモリ、BIOSなど、PC本体に搭載すべきハードウェア上の仕組みに関する指針が盛り込んであります。

例えば、LS100などに用いられているLM78 (National Semiconductor製)は、代表的なセンサーですが、電圧、本体温度、ファンのスピード、シャシーの開閉、ディスクの寿命などといったシステムの状態を常に監視を行うことができます。これらのセンサーで取り込んだ情報は、管理用のPCによって構成情報として集中管理することができますし、異常が発生した場合、管理PC上に表示させることができます。

## 遠隔制御への対応

PCのダウン時間と並んでTCOを増大しているのが、管理者の人件費等のメンテナンス作業にかかる費用です。これまでは、PCの環境を変える場合やプログラムをインストール、アップグレードする場合、PCにトラブルが発生した場合など管理者はすべてについてPCの場所へ行って作業を行う必要がありました。とくに、PCのトラブルの場合、その原因がハードウェア上、あるいはOSを含めたソフトウェア上にある場合ももちろん有りますが、ユーザの単なる誤解や操作ミスであっても管理者は要求によって設置してある場所まで足を運んでいました。

また、管理者の重要な役割であるPCのメンテナンスについても、業務の終わった後で行ったとしても一台一台のPCについて、手をかけてたのであれば大変な労力と時間が必要となります。WfM 1.1では、前記のように、ハードウェアの異常を速やかに検出するためのセンサーやECCメモリ、BIOSなど、PC本体に搭載すべきハードウェア、ソフトウェアの仕組みに関する指針が盛り込んであります。

これらの仕組みによって、外部からPCの状態を把握し、必要に応じて起動するなどの遠隔制御を行うことができます。管理者は、ハードの異常であれば、ユーザからの連絡前に異常状態を検知し、場合によってはトラブルが発生する前に対応をとることができます。また、必要に応じて停止中のPCを遠隔で起動し、BIOSのバージョンアップ、アプリケーションのバージョンアップなども可能ですので、それぞれのPCのところへ足を運ぶ必要も無く、管理者のメンテナンス作業における余分なコストを削減することができるようになります。

(情報誌トピックス)

○ 経電 1月5日号

特集 地球と人と共生する技術へ

～21世紀の研究開発～

→エレクトロニクス各メーカーは、2010年頃の実用化を目指した研究テーマに取り組んでいるが、中心は環境、ネットワーク、ユーザインターフェースが中心で、十年以上先のテーマについてはまだ十分には見えていない。

○ 経電 1月号

特集 こだわりのマザーボード選び

→PCの自作にとってCPUを何にするか、チップセットは、メモリは。いろいろなこだわりで選ばれるマザーボード。どこを見て選ぶのか、こだわりの実際についての特集。

○ ASCII 1月号

特集 定番×誕生 冬のお買い物

→最新マシンから大容量HDD、CD-Rなどの周辺機器までの冬のボーナスで買いたくなる製品のガイド

特集 Net Meetingでゲットする冬の恋

→インターネットへの女性の進出で現実となりつつある男女の出会いの場。

世界に広がるNet Meetingの現状の特集

企画 '97年パソコンの10大ニュース

→いろいろなことがあった1997年の総決算

○ SUPERASCII 1月号

特集 あなたのPCは安全か？

→ウィルス、メール爆弾はもう対岸の火事ではない。インターネットでの安易なクレジットカードによる購入は果たして安全か？PCユーザとしてのインターネット時代のリスクマネジメントについての特集。

○ ASCII DOS/V 2月号

特集 禁断の83MHzマシンを作る

→PCは、メモリの動作速度のために66MHzで動作しているが、新しいSDRAMには133MHzまでの動作が可能な製品も有る。危険は伴うが、それを覚悟してPCの高速化に挑戦しようとする特集

特集 DVDの魔力

→これからのDVDの魅力と現状についての特集

○ DOS/V magazine 1月15日号

特集 大容量時代のHDD設定術

→10GBをオーバーしようとするHDDの使い方特集